平成27年10月1日発行　第34号

東京鷹桜同窓会報

（昨年の総会・懇親会。96名が参加された。10ページ浅野さんのレポートを参照ください。）

同窓会活動の環境

会長　守谷次郎（昭和38年卒）

人口減と現代の人間関係のなか同窓会活動にどんな影響があるか考えてみたい。

厚労省は６月５日、平成２６年の人口動態統計を発表した。出生数は 100 万 3532 人で過去最低を記録した。平成１７年は人口減少元年で初めて自然減になり２６年は減少幅が過去最大となった。出産中心世代の２０～３０歳代女性数が急速に減り、晩婚化、未婚化等から出生数が減少に向かい人口減の傾向は更に続くだろう。この環境において母校卒業生数の推移は平成１７年を境として昭和５０年～平成１６年卒間とは約６０人、昭和５０年以前とは約１００人の減になっている。人口減が同窓会活動にどう影響するのか具体的に示すことは困難だが、関東地区に居を構える方の比率が全期間同じとした場合でも卒業生数が減少しているので絶対数は低下していよう。このことから会員のソースは減少しつつあると言えよう。

現代の人間関係の社会現象として、平成２２年以降メディアが創造した「無縁社会」とか「孤族」等がある。人々を切り離す様な社会病理が強調され、穏やかに結束してきた日本社会が崩壊するかのような見方だ。確かに家族や地域で生死さえ無関心に放置された人々がいた実態は深刻な状況だ。同窓会名簿で居住地表示を拒否している方々が相対的に多いのは昭和４９年～５９年卒にみられる。他との関係を避ける思いが強いのだろうか。平成２３年の東日本大震災では絆の DNA が見事現れたが、復旧等の日が経つに連れ個を主張する生き方が徐々に増えてきているようだ。即ち、個を追求するが故の孤になるのではないか。かつて同窓会といえば、先輩後輩が一堂に会して郷里を懐かしみ、激励し合って楽しい一時を過ごす、ものでした。それは今も変わらないが、更に大きな意義のある時代になってきたのではないか。個を主張する余り、人々を繋ぐ糸が寸断されつつある今日、同窓会の存在意義は誠に貴重と言えないだろうか。

同窓生数が減少の中でも関東地区に母校を共にする三千人に近い同窓生がいるのだ。個（孤）なればこそ同窓の絆のある会合を「つなぎ」として同窓生との誼を通じてはいかがだろうか。

駆け続けた日々

斎藤雄三（昭和 36 年卒）

初めての就職先は箱根を越えた中京圏の自動車メーカーで、営業、調達部門の業務に従事する。

転機は入社 15 年たった昭和 56 年に訪れた。当時自工とは分離していた自販に出向となり、QC の権威　根本専務のもとで「販売の QC」を全国の販売店に展開することになる。工、販、販売店グループの足並みは揃わず国内販売シェアは 37％を低迷していた。メーカーの生産現場、管理部門で成功した QC サークル活動、方針管理を販売第一線に展開、経営改革を目指すものだった。北海道から沖縄の販売店トップに根本さんは QC による改革を熱心に説かれた。最初はモデル店のみだったがやがて全国 250 社の改善活動は月を追うごとに熱を帯び 1 年を経過した時点では早くも販売シェアに上昇機運が出てくる。昭和 57 年 7 月、工販合併となり新生トヨタがスタートする。ほどなく自分は地区担当員として九州・沖縄トヨタ店を担当、販売店と一体となり販売台数、収益目標を達成すべく、月のほとんどを任地ですごすことになる。地元名士のオーナー社長は強い個性の方々ばかりだったが、経営の行き詰まったディーラーもあった。江戸時代中期のふるさと上杉藩の困窮を救う名君鷹山公の出身藩だったことは不思議な縁といえた。少しでも恩返しと秘かに決意、本社の支援を得つつ、経営陣の刷新、組織のスリム化を断行、社員の必死の頑張りにより 3 年で復配に成功する。明治維新を主導した藩ではビジネスでもプライベートでも時折見せる心意気にさすが末裔と感じ入ったものだ。仕事が済めば魚、焼酎も格別で連日談議に花が咲いた。

昭和 61 年、後ろ髪引かれる思いで三河の本社海外事業部に戻り、グローバル競争に入った自動車市場の 10%シェアを目指すべく「グローバル 10」の具体策を練り始める。欧州市場では何度か調査、議論を経てドイツ VW 社との業務提携案に双方のオーナー会長が署名、ヨーロッパ進出の第一歩を踏み出す。

翌 1987 年 7 月、スタート間もないアメリカ西海岸の NUMMI に調達責任者として赴任する。GM とトヨタの合弁会社で生産能力は年産 40 万台、4 千名余の従業員に加え、GM・トヨタから各々20 余名の出向者が合流、会社経営に参加する。GM は会長以下トヨタ生産方式を、トヨタは労働組合との対応を含めアメリカでの経営を学ぼうと、切磋琢磨の日々だった。都合 4 度、米国に駐在するが若き日のサンフランシスコ駐在が一番懐かしい。1992 年春、4 年半の任期を終え本社に戻ったのも束の間、翌年にはケンタッキー州の TMM に赴く。広大な緑の原野に白く横たわる工場は東京ドームの 16 倍と言われた。タバコ、バーボンウィスキー、ダービー馬の生育で名高く雇用、収入の面で大きな貢献を期待された。

品質向上とチームスピリッツを合言葉に 6 千名のチームメンバーとともにカムリ、アバロンを順調に立ち上げた。

1996 年 6 月、グループ関係会社の豊田合成へ出向を命ぜられる。エアバック、インパネ、ボデーシーリング部品など製品は多岐にわたり、更に LED 部品も加わり社員の意気は高かった。

カーメーカーに続き部品メーカーも海外展開が求められた時代で、合成も世界トップレベルの製品を中心に売上高 1 兆円企業という遠大な目標のもと、グローバル展開にまい進する。13 年間の在職中、50 件余の会社設立、M&A に携わる。

2012 年、アメリカ企業での職務を最後に穏やかな生活になる。少子化、高齢化、人口減少に悩む長井市からの委嘱により活性化を目指すまちおこしを手伝いながら徳川家康公誕生の地、岡崎で趣味の油絵と取り組む日々を楽しむ。

『白馬冬景』　F 50

赤崎先生、ノーベル物理学賞受賞

昨年10月、日本人3名のノーベル賞受賞のニュースは日本中を湧かせた。赤崎先生は20世紀中の発明は不可能と言われた青色LEDに長い年月挑戦され、遂に1985年「輝くような青い光」をつくられた。先生のご指導、ご支援のもと豊田合成は約10年がかりで商品化・事業化に成功する。青色LEDの発明により光の3原色が実現し通信・医療・農業など幅広い分野に大きな技術革新をもたらした。更に室内用光源として世界15億人以上の人々の生活の質を向上させたと讃えられた。近年10年余、毎年受賞候補に上がりながら待ち望んだ吉報だけに、プロジェクトに参加していた自分らにとって喜びも一入だった。

東北大名誉教授

馬場護氏を招き講演会開催

守谷次郎（昭和３８年卒）

昨年１１月１５日、八重洲の貸会議室プラザにおいて東北大学名誉教授の馬場護さんの講演会を開催致しました。馬場さんは昭和３８年卒で長年放射線や原子力関連の研究開発に従事、その傍ら放射線防護の専門家として原子力安全にも関係して来られました。また、今年の３月末まで、21世紀の科学や技術の発展に欠かせない物質・生命、原子核・素粒子等の本質解明を目指す最先端研究施設「J―PARCセンター」の副センター長（安全担当）として活躍されました。

今回の講演会は平成２５年の総会において同窓会活動の一環として設立を予定している**「鷹桜サロン（仮称）の立ち上げの会」**として開催したものでありました。

講演要旨

放射線と現代社会
特に、放射線の利用とリスク

馬場　護（昭和３８年卒）

紹介いただいたように放射線は私にとって長い付き合いになるが、2011年の福島第一原発事故以後、より厳しい目を向けられるようになった。余り馴染みのないものであったので仕方がない面もあるが、放射線は今や医療から基礎科学まで広範な分野で利用されており、講演では陰の面も含めて「放射線の素顔と社会」を語らせてもらった。

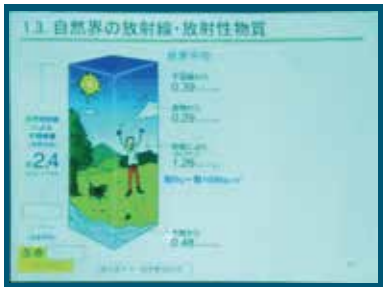
人類と放射線の関わりは、約100年前、レントゲンやCT（コンピューター断層撮影）でお馴染みのX線の発見に始まる。目に見えないが体を通り抜けてフィルムに写るという不思議なX線は内臓や歯の診断・治療などに有効なことが分かり、瞬く間に利用が広まったが、同時に放射線を浴び過ぎると人体に悪影響があることも分かってきた。様々な失敗や経験から悪影響を避け有効に利用する知恵が蓄積され今日に至っている。

放射線は特別なものと思われがちであるが、放射線を出す「放射線物質」は地球の内部や宇宙に大量に存在し、そのため我々は地球、空気、食物、宇宙などからの放射線を日常的に浴びている。

放射線を浴びることを被曝といい、その時の人体への影響の程度をシーベルト（Sv）という単位で表す。自然放射線による被曝は世界平均で年間2.4ミリSv、日本平均で2.1ミリSvであるが、地域差が大きく、国内でも3倍程度の違いがある。

世界的にはフィンランドなどの北欧諸国では平均でも年7.5ミリSv、インドのケララ州やイランのラムサール(渡り鳥条約で有名な温泉地)では最大でそれぞれ年35ミリSv、260ミリSvに及ぶことが知られている。なお、日本ではCTなどに伴う医療被ばくが多く、年3.8ミリSvと世界一である。

問題となる人体への影響は、放射線が細胞や遺伝子に傷を与えることで起こるが、こうした傷の原因は、放射線だけでなく紫外線や化学物質、ストレス等数多くある。人体は生命維持のために常にそれらの傷を修復しており、通常、自然放射線程度の少しずつの被爆で障害が顕在化することなく、上に紹介したような自然界の放射線が日本の数十倍を超えるような地域でも異常は見出されていない。問題なのは原爆のように短時間に大量の放射線を浴びて修復が追いつかない場合と修復に手違いが起こる場合で、それぞれ、臓器障害や全身衰弱、がんや遺伝性影響が生じる可能性がある。しかし、人体には傷ついた組織を体外に排除する機構があることも分かってきており、放射線に対しても栄養のバランスと適度の運動、特に野菜・果物等抗酸化物質の摂取、ストレスの低減、などを通して免疫力と修復力を維持することが重要と言える。



放射線は五感に感じないので危険と言われるが、実際にはごく微少量まで測定でき、様々な放射線が利用されている。医療診断や非破壊検査、がんの治療、品種改良・材料開発、遺跡や物質の年代測定、物質組成や構造の解析、宇宙の生成機構・構造などの基礎科学、等枚挙にいとまがない。また、臓器を取らずにがん治療が可能、非破壊的に物質の他元素同時分析が可能など、放射線でしかできないことも多く、放射線は現代社会に不可欠な存在といえよう。

福島の事故は許されないことであったが、事故による環境や食物の汚染が、野生の山菜やキノコ、野獣などを除く一般の市販食品の場合は、あっても自然の放射性物質の10分の一以下であることが分かってきており、復興の一層の進展を切に望むとともに、放射線の復権を願う。

戦後70年
特別企画

『我 上海の露となりしか』

軍医大尉 桑島恕一の生涯
(昭和９年卒)

工藤　美知尋(昭和 41 年卒)
(日本海軍史戦略研究所所長)

はじめに

昨年の８月 11 日の夜、NHKBS１から、スペシャル番組『山本五十六の真実』) が放映された。私もこの番組作りに半年間にわたって携わった。
幸いにも上記の番組は好評で、ＮＨＫ海外放送や今年の正月の再放送も含めて都合４回にわたって放映された。さらに今年６月 10 日には、NHK 出版新書からＮＨＫ取材班・渡邊裕鴻 (ディレクター) 著『山本五十六戦後７０年目の真実』と題して出版された。なお拙著『山本五十六の存念』は、今年１０月頃、光人社から出版される予定である。山本五十六評伝の決定版であるので、是非ご一読いただきたい。

最初の放映があった昨年８月のある日、長井市十日町出身の谷口至良氏 (東北大学工学部卒、元新日鉄勤務) から電話を頂いた。「番組を大変興味深く観させて頂いた。ところで先生は殉国の軍医大尉・桑島恕一さんの事件を知っていますか？」という内容であった。「残念ながら存じ上げない」と答えると、数日して、かつて軍医大尉恕一氏と兄弟同然に育った桑島治三郎氏 (昭和６年旧制長井中学卒、東北大学医学部神経眼科名誉教授) が書かれたエッセイ集・『殉国の軍医大尉』をわざわざ送ってくれた。

これを読むことによって、私は初めて今から７０年前に、郷里の長井町で起こった実に哀しい事件を知ることになった。

桑島眼科医院といえば、長井町出身の者で知らない人はいないだろう。私が学んでいた県立長井高等学校 (昭和３８年～４１年) 在学当時は、先代の桑島眼科医院長の桑島誠氏は同窓会会長として入学式や卒業式の際には必ず参列され、祝辞を述べられたものだった。

桑島眼科医院は、長井町の名家・桑島家の一族である。旧桑島眼科医院は、昭和２年に建てられた当時にしては珍しい近代建築だった。数年前、長井市指定有形文化財にも指定されて「桑島記念館」として保存されている。

『県立長井高等学校鷹桜会同窓会名簿』を開くと、昭和９年卒の物故者の中に桑島恕一の名前が見える。

無実の罪を背負い　裁判そして処刑

この桑島恕一軍医大尉は、終戦直後中国上海に設けられた「上海米軍裁判」で、俘虜(捕虜)虐待の廉によって、昭和２２年２月１日絞首刑に処せられた。

恕一氏が処刑された日は、私が生まれる日(昭和22年4月29日)のわずか3ヶ月前のことである。私は周囲から祝福されて生まれたに違いないが、これと反対に同じ長井の町では、言い知れない廉によって悲劇に見舞われた人間と家族がいたのである。このあまりの明と暗の差に、何とも言いようない気持ちになって来るのである。

ところでこの裁判そのものがとんでもないほど杜撰なものであり、その罪は全くの濡れ衣で完全な冤罪だと知ったとしたら、読者諸氏はどう思われるだろうか・・・・・・。　同じ長井の町で育った者として、さらには長井高校の同窓生の一人として、義憤を感ぜずにはおれないに違いない。

以来私はこの事件の調査にかかりきりになった。私は桑島治三郎氏が私家版で触れられた恕一事件の概要を頼りに、そのウラを取ってみようと思った。

引用文献などを頼りに早速調べてみると、BC級裁判を扱った書籍は優に20冊以上はあった。それらの本を片っ端から読んでみたが、残念ながら桑島恕一事件について書いてあるものは1冊(『遥かなる南十字星』)を除いてなかった。しかしその本には数行しかこの恕一事件について触れられていない。

そこで私は今年5月、竹橋にある国立公文書館に行って、この裁判の記録を調べる事にした。

公文書館の係りの女性に、「桑島恕一事件で検索できるのですか？」と訊ねてみると、「個人名で検索することは出来ない」という。

「それじゃ、どの文書を検索すればいいのでしょうかね？」としつこく訊ねてみると、「米軍上海裁判というファイルの中にあるかも知れない・・・」という。こうしたやり取りだけでも、1時間近くは費やされている。

ともかくこうして私はようやくこの「上海裁判」のファイルに漕ぎつけることが出来た。このファイルは、「法務大臣官房法制調査部作製・上海裁判(アメリカ裁判関係)①～⑫」と題して12個に分冊され

綴じられていた。全部併せると1千枚以上はあり、しかも英文で書かれているファイルもある。【部分公開】と書いてあるファイルもあれば、【非公開】と書いてあるファイルもあった。

仕方がないので私は一枚一枚めくりながら慎重に読み進めることにした。朝から取りかかって、全てを見終わった時には日はとっぷりと暮れていた。しかしこれらのファイルの中からは、「桑島恕一の一件」を見つけ出す事は出来なかった。

「万事休す！」と一度は観念した。その翌日、思い足を引きずって永田町にある国会図書館に行ってみた。そこで『戦犯裁判の実相』(巣鴨法務委員会編・上下2分冊)の資料集(2千ページ以上)とめぐり合うことになった。さらに調べていると、『世紀の遺書』(巣鴨遺書編纂会)と題する書籍にもぶつかった。

この2冊の資料集によって、私は桑島恕一事件の全貌を完全に理解する事ができた。

「桑島恕一軍医大尉事件」は、いわゆるBC級裁判の悲劇の典型である。B級戦犯、およびC級戦犯とは、第二次世界大戦の戦勝国である連合国によって布告された国際軍事裁判所条例、および極東軍事裁判条例における戦争犯罪類型、B項―通例の戦争犯罪、C項―人道に対する罪に該当する戦争犯罪、または戦争犯罪人とされる罪状に問われた事件のことであり、併せてBC級戦犯裁判と呼ばれている。

学者によっては、捕虜の指揮、監督にあたった士官、部隊長の事件のことをB級戦犯裁判、直接捕虜の取り扱いにあたった者で、主として下士官、兵士、軍属の事件をC級戦犯裁判として説明している者もいる。

ちなみにA級戦犯裁判とは、満州事変から太平洋戦争終結に至るまでの日本の政治軍事指導者たちを、「共同謀議」や「平和に対する罪」によって、市ヶ谷にあった旧士官学校の大講堂において裁かれた国際裁判(市谷裁判あるいは東京裁判) のことである。

A級裁判では２８名が裁かれ、東条英機元首相以下７名の日本の政軍の指導者が絞首刑に処せられた。

一方BC級戦犯は、GHQ(連合国軍総司令部)により、横浜やマニラなど世界４９ヶ所の軍事法廷で裁かれ、被告総数は５千７百人で、このうち９８４人が死刑判決を受けた。このうちアメリカ裁判に限れば、３３１もの裁判が行われ、被告総数は１０２９人であった。

その内訳は、横浜が３３１裁判で被告は1029人、グアムが２９裁判で被告は１０９人、クェゼリンでは３裁判で被告は１８人、マニラでは８８裁判で、被告は２３８人である。

そして桑島恕一軍医大尉が裁かれた上海裁判では、１０裁判が行われて、被告は５２名であった。この上海裁判のうちの一つで桑島恕一は裁かれた。

恕一のおいたちと命名の由来

桑島恕一の実家は、長井市栄町の常楽院の横にある。ここで恕一は桑島本家の忠一氏の長男として大正５年誕生した。

父親の忠一氏は戦前長井町の町長として尽力され、戦後の追放解除後は初代の市教育長などを勤められた人物である。当時の長井町にあっては最高の文化人と言っていい。もちろん町民からの人望も非常に篤かった。

「恕一」の名前の由来は、論語の『父子の道は忠恕のみ』から引いたもので、犬養毅によって名付けられた。この犬養毅の政治思想に忠一は傾倒していた。

ちなみにわれわれ長井高校の宝とも言える扁額の『我乎備物萬』(万物我に備わる)は犬養毅の筆によっている事は皆様ご存知の通りである。

恕一の性格は温良そのもので、身丈も1メートル75センチ以上もあり、体格もよく、旧制中学時代にはすでに剣道４段の腕前であり主将も務めた。忠一にとっては自慢の息子であり、周りからもその将来が大いに嘱望されていた。

昭和９年３月、恕一は旧制長井中学校を卒業し、すぐに東京医専(現東京医科大)に進み、軍医委託生になった。この軍医委託生は成績優秀でなければなることが出来なかった。委託生となると授業料は免除になる代わりに、卒業後は軍医になる義務があった。

昭和１６年、恕一は中国の奉天(現在の瀋陽)の陸軍病院に配属され、軍医中尉としてスタートした。

昭和１７年、恕一は近藤英次郎海軍中将の三女節子と結婚した。二人は１年足らずの間、奉天陸軍病院の官舎で新婚生活を送った。

恕一は、間もなく身重になった新妻を内地に帰した。そして翌年の昭和19年11月5日一粒種の純一が誕生した。恕一にとっては幸せで平穏な時期であった。

桑島記念館

昭和2年建築、木造２階建ての旧桑島眼科医院。
完全な左右対称形でゴシック風建築。
平成７年移転、補修された。長井市指定文化財。
彩工房Post Card「長井　レトロを歩く」から

人類愛の青年軍医

ところが昭和１７年末、フィリッピンで降伏した米比軍将兵捕 2000 人が、マニラから台湾経由で、奉天の捕虜収容所に送られて来た。米比兵捕虜の大半は、フィリッピンのコレヒドール要塞での籠城当時から、飢餓や栄養失調に陥っており、マラリヤ、赤痢などに罹っていた。さらに降伏後の灼熱のバターンの死の行進や、その後の収容所生活と長期の輸送によって、彼らの症状は一段と悪化し、奉天到着時には骨と皮ばかりに痩せこけていた。輸送船の中でも死亡者が続出し、奉天に来た時には既に 500 名ほどが欠けていた。

しかし捕虜収容所は病院ではない。医務室と一人の軍医がいるだけであり、沢山の病人を扱う事は出来なかった。当時の捕虜収容所の福島主計少尉は、2 週間で 2000 名分の食料調達を命じられたものの達成できず、このため「任務を達成しえず、自決によって謝す」との遺書を書いて自決したほどである。

そこで捕虜収容所の軍医は、急遽陸軍病院に応援を頼む事にした。こうして桑島恕一軍医中尉が奉天捕虜収容所に転属されることなった。

捕虜収容所勤務となった恕一軍医が懸命に捕虜の治療に当ったのは言うまでもない。しかしいかに献身的に治療に当たろうとも、枯れ木のようになった捕虜たちの生命を救う事は到底出来なかった。

ある日のこと、恕一軍医中尉は、思い切って新京 (長春) の関東軍司令官梅津美治郎陸軍大将を訪ね、梅津大将に直談判してみることにした。ここで恕一は、軍医、衛生下士官、衛生兵などを大幅に増員し、医療態勢を大幅に改めることを提案した。これが功を奏して、医務室を三等病院に昇格することに成功した。

当時 26 歳だった少壮軍医恕一の懸命の努力の甲斐あって、それまで猛威を振るった赤痢も収束し、約 1300 名の人命が助かった。

昭和 18 年、恕一は、軍医大尉に昇進した。この間に、恕一は、米捕虜兵たちから連名で感謝状まで贈送られている。

つかの間の幸せ

昭和 20 年 8 月 15 日恕一は終戦を迎えた。それから半年後の昭和 20 年 12 月、恕一はようやく長井の栄町の実家に復員した。そこで恕一は、３年ぶりに愛妻の節子と 1 歳になる長男の純一と対面する事が出来た。

家族再会の喜びも束の間、５ヵ月後の昭和 21 年 5 月 8 日のこと、恕一は長井署によって、自宅で戦犯容疑によって逮捕された。いろいろ私が聴いてみると、この逮捕の瞬間を実際に目撃した近所の人たちは何人かいたようである。

突如恕一に降りかかったこの災難に対して、桑島家はもちろんのこと旧制中学の同級生や先生方などから「減刑嘆願書」の署名集めの声が沸き起こった。

彼らは和英辞書と首っぴきになりながら、懸命にマッカーサー宛に恕一の「減刑嘆願書」を書いた。

当時長井町の人々の間では、お茶のみの際に、「忠一つゃの所の長男の恕一さね。とんだ事になったそ。」、「ほだ、ほだ。とんだことだなっし。恕一さはおやんちゃまの忠一つゃの自慢の息子だったべした。おやんちゃまも本当に気落ちなさってなっし。本当に気の毒だっし。・・・・忠一つゃのところはご難続きだべした。ほらバッチの娘さんは女子挺身隊に行って、無理がたたって 19 歳で斃れたしね。その上の姉ちゃの旦那さんは軍医だったんけんど、フィリッピンで戦死しやったしね。本当に気の毒だっし・・・・」「恕一さにめんごいおぼこがえだそ。恕一さのお嫁さんは節ちゃんて言うんだけどなっし、米沢出の海軍中将のお嬢さんで、東京の人だったんだげんどなっし、これからどうすんなだべなぁ・・・・。長井の人じゃないからなっし。とっても長井にはえんにぇんじゃないべかなっし・・・・。いやいや、もございごと・・・・」と声を潜めて話すことになった。

そんなことを話しているわれわれの婆 (ばば) ちゃ達も、大抵は大事な息子を一人や二人戦争で亡くした「靖国の母」なのであった。

事実私の実家でも、本来ならば家を継ぐべき長男の工藤政雄 (昭和 13 年旧制長井中学卒) は昭和 20 年戦病死している。

さて上海裁判で恕一軍医大尉は、捕虜虐待の廉で裁判にかけられた。裁判で恕一を訴えた元米軍人捕虜は二人いた。

そのうちの一人の捕虜は、昭和 21 年 9 月 5 日の第一回公判で証人台に立った。そしてその元捕虜は「劣悪な給食、虐待、患者の放置によって多数の死者が出た」と証言した。

公判 3 日目のこと、もう一人が証人として妻に手を引かれて出廷した。盲目を装った元捕虜の下士官は、「桑島に無根の事で縛られ、水をかけられて一晩拷問され、それが元で失明同然になった」と証言した。これが事実ならば、重大な捕虜虐待に当たる。ところが真相は全く違っていた、

この下士官はメタノールを盗飲して酔っ払ったあげく、急性脳中毒を起こした。このため恕一によって胃洗浄などの救急措置が施され、一命を取り止めたのだった。何とこの元捕虜は控え室では黒メガネを外して英字新聞を拾い読みしているところが、何人から目

撃されている。

一般的に BC 級裁判の証言には、信憑性に欠けるものが多くあった。終戦直後だけあって、ほとんどの証人は「日本憎し」で凝り固まっていた。「木の根を食べさせられた」という証言を詳細に調べてみると、この木の根とは「ごぼうの煮付け」だったり、やけどを負わされたという虐待が、実際は皮膚病や手足の不調を治療するためのお灸であったりしたものが数多くあった。

今から見れば笑い話の類であるが、しかしこうした悪意に満ちた証言によって、BC 級戦犯の多くは処刑されていったのである。

７回にわたる取り調べとわずか３回の公判を経て、9 月 16 日最終公判があった。この間恕一には、一度も弁明の機会が与えられなかった。その判決は無惨にも「デス・バイ・ハンギング」であった。

父子の手紙　妻への手紙

この悲報を長井にいる家族が知ったのは、9 月 18 日の事であった。終戦事務局を経て最初で最後の航空便が許されるというので、父の忠一は急いで筆を執った。

親として最後の便りを書く。絞首刑の判決と聞いて一時は驚いたが、今は総てを諦めた。お前の人間性の立派な事はお前を知る限りの人に等しく認めるところ、責任上どんな刑に処せらるるともこの認識に変わりはない。以てお前は瞑すべきであり、親として天地に恥じてない。純一は家族一同、心を協せ、誓って立派な人間に育て、お前の志を継がせるから安心して逝って呉れ。従容死に就くは古来武人の習、今こそ修羅の妄執を断ち切って、心静かに観念してこの世を終わって呉れ。それでは来世で亦縁が繋がれよう。
9 月 18 日　　家族一同を代表して父より

恕一もまた 9 月 20 日、上海の監獄で最後の手紙を書いた。

拝啓　ご両親様、是以上のない親に対する不幸を御許し下さい。過去 30 年育み下された御恩は来世でお返しする覚悟です。

過去を省み、今は謙虚な気持ちで神の命に従う決心です。新生日本の平和と将来の発展のため私一身の死が役立つことがあればと思い、悲しまず、誰をも恨まず、元気で神仏の元へ行く覚悟です。

過去 30 年は一瞬の夢でした。殊に結婚後の 2 年半は短いものでしたが、然しこの 30 年を生きて来た事実は否定する事が出来ません。それに私には『純一』という子があるのです。今に及んで真に人間の価値を知りました。純一も今は私の子、節子の子とのみは考えられません。神がわれわれに与えてくれた子です。生まれるべくして生まれたのだと泌々思っています。次代に対する私の責任の一端を果しえた事を思い、安んじて刑を受ける決心です。何卒純一の養育を呉々もお願いする次第です。私は来世より常に純一と節子を見守る事が出来る事を確信し、常に二人と共に住むことを信じて、この世を去る覚悟です。・・・・・
御両親様、私以上の不幸な人が沢山あることを思い、決して悲しまんで下さい。

節子、純一へ

結婚後 2 年半、而も一緒に暮らす事が出来たのは僅か 1 年足らずではあったが、わが妻であり、わが夫である事実は永久に消えるものではないのです。巣鴨入獄前の 4 ヶ月余の (長井での) 生活および満州での生活は永久に忘れる事は出来ません。いたらない自分によくやってくれた事を感謝しています。純一は神が吾々に与えてくださった子です。純一の肉体には私とお前の血が流れている事を思い、決して悲しまず寂しがらずに生きて行ってくれ。

・・・・父母もだんだんと老いられる事と思います。何卒私の分まで、孝行を尽くしてくれる様お願いします。・・・・・純一と三人にて 4 月に撮した写真は最後までポケットに入れて以て行きます。
東京の御父上様
長井の御両親様
節子殿

それから半年ほどが経った昭和 22 年 2 月 1 日午前 9 時、軍医大尉桑島恕一は上海の監獄で一人寂しく処刑された。

「今回私が桑島恕一のことを取り上げたことを、もし節子さんが知ったらどう思うだろうか？」と、当代の桑島眼科院長である一郎氏に率直にぶつけてみると、「内心喜んでくれるんじゃないかな・・・・」という答えだった。

私には、恕一の御霊は戦後 70 年経った今も中空に漂っているように思えてならないのである。長井で育った者としては、この哀れで毅然とした軍医大尉恕一の悲劇を風化させてはなるまいと考えている。

戦後生まれの我々は、いたずらに歴史を美化することなく真摯に過去と向かい合い、多くの悲劇に対して厳粛であるべきだ。

＊この夏『東京新聞８月２９日』に、戦後７０年特集で、桑島恕一の悲劇が取り上げられました。筆者は上記の題名で来年書籍化するため目下執筆中です。

今を生きる高齢者から学ぶ
訪問看護ステーション所長

麦谷弘子（昭和３９年卒）

『我上海の露となりしか』―軍医大尉の生涯―を、読ませて頂き、先輩に人類愛に満ちた素晴らしい軍医の桑島恕一さんがおられたことを、そして無実の罪を負って裁かれしかも処刑されたことを初めて知りました。医師としての役割と責任、人間の価値、親と子に対する思い、毅然とした姿勢にあらためて敬意を表します。「従容死に就くは古来武人の習」の精神が山本五十六の「個人としての意見と正反対の決意を固め、その方向に一途邁進の外なき・・・」にも表され、当時の日本を一つにし、その功績が復興へと導き今に繋がっているのだと思います。

私は30年近く勤めた病院を退職し、介護保険制度発足と同時に、在宅医療へと転換し、訪問看護センターに携わっています。利用者は平均85歳以上、様々な時代背景の中で、一人一人それぞれの歴史があり、高齢者は、今を生きておられます。その人生の最後において、その人の辿った一切の歴史をかけて、苦しかった、楽しかった、あるいは屈辱の、栄光の、それぞれの悲しみや喜びのすべての歴史が、一つの美しさとなって存在しています。

これから認知症の方や一人暮らしの方が増えていく中で、医療や介護が必要になっても、出来るだけ住み慣れた地域で、生活が継続出来るように、私たちは、高齢者の『生きる』と言うことを最上のものとする為に、高齢者に、瑞々しく生きている人としての共感を持つことから真の接近が始まり、高齢者のすべてを受け入れる。そこから在宅看護が始まります。

健康状態に問題のある方のプラスとマイナスを、根拠に基づいて判断し、リスクを取り除く方法を考え出し、今、限りある人生を、その人らしく、生き生きと豊かに生活して頂く為に、専門性をもって働きかけるのが在宅訪問看護師の役割であります。

終戦の年に生まれ、今年で70歳、大先輩方が築いた精神を礎とし、自分の仕事として働き続ける事に感謝をしたいと思います。

（平成26年）　第3回　歴史ハイク
鎌倉めぐり

桐山有節（昭和33年卒）

昨年は大巧寺（だいぎょうじ）～本覚寺～妙本寺～比企ヶ谷（ひきがやつ）～安国論寺～常栄寺（じょうえいじ）（ぼたもち寺）などを探訪しました。本年は、大船駅より、湘南モノレールに乗り、湘南江ノ島駅下車。それより「常立寺（じょうりゅうじ）」へ。ここは、「文永の役」(1274年)の翌年に処刑された杜世忠（とせいちゅう）ら5人を供養したといわれる五輪塔（ごりんとう）がある。余談ではあるが、モンゴル出身の力士たちが、ここで祈願すると不思議にも「白星」が続くという。その多くが「幕下」以下の若い力士であるという。「常立寺」を見学した後、日蓮大聖人が「首の座」に着いたと言われる「竜口寺」、義経がつづったという「腰越状（こしごえじょう）」や弁慶が座ったという「腰掛（こしかけ）の石」がある「満福寺（まんぷくじ）」。いろいろな名所や旧跡のある鎌倉は、まだまだ見学したり、学ぶべきところが沢山あり、退屈する閑（ひま）などないくらいである。しっかり学習していきたい。

長井市アンテナショップ

長井市東京事務所

(一財)置賜地域地場産業振興センター
東京事務所

〒１４４－００５１
東京都大田区西蒲田8-3-6橋本ビル１Ｆ
TEL/FAX　03-6424-7860

平成27年 イーグル会 ゴルフコンペレポート

イーグル会会長　大滝　二三夫(昭和37年卒)

平成27年5月22日、リバーサイドフェニックスGCにて開催された本コンペも第7回を数え、第6回優勝幹事の四釜勝美氏がOut38、In46、Total84、HDCP12、Net72という素晴らしいスコアで連続優勝を成し遂げられた。

この会は新ペリアによるHDCP競技で、優勝者とブービーの方に次回幹事をお願いしており、開催時期は5月と11月とほぼ決まっているものの、予約コースや実施日、賞などは幹事一任となっている。

関東一円に在住するメンバーの利便性を考慮し、これまで埼玉と神奈川のゴルフ場が選定されてきた。第1回から順に越生GC、大厚木CC、リバーサイドフェニックスGC、平成倶楽部、東名厚木CC、リバーサイドフェニックスGC、リバーサイドフェニックスGCとなっている。

また、ささやかな賞金と賞に漏れた方にも努力賞が用意されるなど、幹事の気配りが嬉しい。

2012年5月開催の第1回イーグル会はわずか6人という心細い人数でのスタートだったが、参加資格者を鷹桜同窓会メンバーとその家族まで拡大するとか2012年以前の同窓会大会参加者に参加を呼びかけるなどの努力が実り、2014年11月開催の第6回大会では過去最高の4組16人でのコンペと盛会であった。

会の目的は会員相互の親睦を深めることと健康増進を図ることである。昭和28年卒の土屋先輩が初回から連続で参加されており、後輩のみんなの目標となっている。また、四釜ご夫妻も過去4回夫婦で一緒に参加されており、田舎の話も交えながらみんなで和気あいあいとゴルフを楽しんでいる。

忘れてならないのは、第4回大会から始まった前夜祭で、お酒の好きな方、強い方が冷酒の利き酒やら、銘柄に関する薀蓄を述べ合うなど楽しんでおられる。下戸に近い私や大島嬢も遠方より出かけるより楽であると参加し、一緒に料理とお話の輪に加わっている。

次の第8回イーグル会は2015年11月6日(金)、秦野CC、前夜祭は鶴巻温泉、梵天荘を予定しています。

この記事を読み新たに参加したいと思われた方は次回幹事の四釜さん(kshikama@ac.auone-net.jp)、または大滝（otaki@f2.dion.ne.jp）までご連絡ください。

平成26年総会・懇親会レポート

ータイムスリップするひとときー

副事務局長　浅野　陽一（昭和44年卒）

2014年１０月２５日土曜日、『レストラン・アラスカ』にて、平成２７年度東京鷹桜同窓会の総会と懇親会が開かれました。

会場となった「レストラン・アラスカ」は、千代田線・日比谷線の霞ヶ関駅から徒歩２分にある日本プレスセンタービルの最上階にあります。入口を入ると目に飛び込んでくるのは、大きなガラス窓に広がる日比谷公園の緑。店内は、天高１５メートルの巨大なドーム型空間。開放感あふれるなかに、落ち着きのある雰囲気を演出しています。バーカウンター、サロンスペースも併設されています。着席100名、立食200名の広い会場です。

当日は、６名の来賓の方々と９３名の同窓生が集いました。昭和２０年卒業から昭和６０年卒業までの方々です。

みなさん、会場に足を入れた瞬間から、高校生に戻るのでしょうか。標準語を話しているつもりでしょうが、微妙に山形なまりの言葉になり、仲間を呼び捨てにする声が広がりました。そうです、タイムスリップの始まりなのです。

会場入口では、長井のおみ漬けや玉こんにゃくなど懐かしい食べ物が迎えます。それも、タイムスリップへの呼び水となっているようです。

さらに、ご来賓の６名の方々の山形弁も、タイムスリップに拍車をかけたのです。東京に来たのだから標準語を、などという気遣いは一切なく、山形弁、長井弁なのです。この言葉が、我々を、一瞬に、あの早苗が原の校庭に立つ高校生にさせるのです。

こんなことを書いていると、総会はどうした？と言う声が聞かれそうですが、総会も和やかな雰囲気の中で行われました。

まず、守谷会長の東京鷹桜同窓会をなんとか盛り上げたいという熱い想いの挨拶。続いて、議事へ。木村清次さん（４４年卒）の落ち着いた議事進行とみなさんの早く懇親会をやりたいというお気持ちで、６つの議題は、大きな拍手で承認されました。

そして、待ちに待った懇親会です。

まずは、御来賓の本部同窓会会長 勝見英一郎様、長井高等学校校長 岸順一様、長井市教育長　加藤芳秀様よりご挨拶をいただきました。本部百周年への想いや長井市の教育への熱き想いをお話されました。もちろん、すべて山形弁です。

安部策夫様（２８年卒）の乾杯で、会は、一気に盛り上がり、おしゃべりと笑い声が会場に広がりました。同期の仲間たちと飲みつつ語り合う姿は、高校時代のあのときと重なってきます。そんな中で、武田副会長の退任挨拶に、労をねぎらう温かい大きな拍手も。

岸校長の学校紹介では、学校の様子や後輩たちが活躍している画面に、激励の拍手が沸きました。その後、望月成美さん（ソプラノ歌手・５６年卒）の独唱で、美しいソプラノの歌声に、ますます酒とおしゃべりは進みます。

会も終盤、全員合唱と校歌斉唱へ。みなさん、背筋を伸ばして、大きな口で、目を輝かせて歌いました。元合唱部の完戸康男さん（４４年卒）のエールで会は閉じられ、同期同士が、三々五々、二次会へと流れていきました。

高校の同窓会は、なぜこんなに高揚するのでしょうか。中学時代とも大学時代とも違う、高校時代は、あくまでも青臭い青春そのものだったからでしょうか。それとも、人生の分かれ道だったからでしょうか。

どちらにしても、一つの人生の区切りを迎えた自分にとっては、タイムスリップするこのひとときが、何ともいえず懐かしく、うれしいのです。

「来年も参加できるように健康でいようぜ。」が、別れ際の決まり文句になっています。

会員のみなさん、人生に一区切りついた時分には、どうぞ、東京鷹桜同窓会総会・懇親会にご参加ください。新たな出会いが生まれますよ。

※今年の懇親会に、『広い河の岸辺』を訳詞されたケーナ奏者八木倫明さん（５６年卒）も出席されますよ。もちろん演奏もありです!!

講演『南極から見た地球の健康状態』

5月16日、東京八重洲で開催された前期学年幹事会終了後、佐藤元保副会長による『南極から見た地球の健康状態』と題して講演が行われた。講演の模様と内容を記す。

佐藤元保副会長は、気象庁に勤務時代に、南極越冬隊の一員として、南極にわたり、観測活動をなさった。その経験に基づいて、講演をして頂いた。向学心に燃えた聴衆（本会学年幹事の紳士淑女）の皆さんは、熱心に、講演に耳を傾けておられた。零下何十度という厳しい環境での調査研究活動の様子を映像を用いて披露して頂いた。中々知る事の出来ない貴重な体験、また、他では見る事が出来ない貴重な映像を通して『南極』の様子、そして、そこから分かる『地球の健康状態』を解説して頂いた。

南極の氷には、地球の歴史が刻まれているそうだ。地球温暖化の原因である二酸化炭素の発生増加の歴史が、この観測で解明出来る。産業革命以降の二酸化炭素の発生増加のトレンドが南極の氷に明確に刻まれている事。大変印象的であった。人類は、地球を汚してきた。地球は悲鳴をあげているそうだ。地球を大切にし、これ以上いじめてはならない事を学ばせて頂いた。

時には、ブリザードが吹きまくる天候。マイナス50℃の外気に触れると頬がすぐに凍傷になるという環境。「水は氷を融かして作るんだよ。」水が貴重だと言う話。風呂に入るのにも大変な労力を要する。貴重な出来事だ。観測の体験談に乾杯！！！講演に乾杯！！！

これからも、素晴らしい講演が企画されるだろう。こうした講演に参加出来る事は、これまでは、学年幹事の方々の特権であったが、鷹櫻サロン同様、一般会員の皆さんにも門戸を広めたいものと考える。（黒澤記）

乃木坂歯科クリニック

院長　藤野よし男
藤野由美子（昭和43年卒）

〒107-0052　港区赤坂9－5－26パレ乃木坂202
TEL　03－3404－9838

年に1回は、歯のチェックを！

平成 26 年度事業報告（平 26. 6. 1～平 27. 5. 31）

役員会議の開催　５回
・年間業務計画の策定、・会報・ＨＰの計画策定
・決算および予算案の総会上程、・役員改選案の総会上程

学年幹事会の開催　２回
・総会動員策の検討、・役員会議決議事項の報告

総会・懇親会の開催（平成２６．１０．２５）
・93 名参加、母校の岸校長、同窓会本部・勝見会長、大森副会長、加藤教育長、安部事務局長が臨席

本部主催の会議等への出席
・総会・集いの会、支部連絡協議会、幹事会

会報の発行（第33号）・HPのデータ更新

鷹櫻サロン・イーグル会・歴史ハイク

平成 26 年度決算報告

《一般会計》　（平 26. 6. 1～平 27. 5. 31）　単位：円

収入の部	予算額	決算額	差異
年会費	270, 000	286, 870	−16, 870
懇親会費	800, 000	776, 000	24, 000
寄付金	285, 000	320, 000	−35, 000
本部助成金	13, 000	13, 000	0
前期繰越金	154, 364	154, 364	0
（収入合計）	1, 522, 364	1, 550, 234	−27, 870
支出の部	**予算額**	**決算額**	**差異**
総会費	315, 000	334, 487	−19, 487
懇親会費	690, 000	658, 660	31, 340
会議費	110, 000	111, 717	−1, 717
通信費	30, 000	41, 410	−11, 410
広報費	8, 000	5, 537	2, 463
支払手数料	34, 000	34, 552	−552
消耗品費	45, 000	11, 834	33, 166
本部派遣費	50, 000	51, 830	−1, 830
予備費	240, 364	7, 904	232, 460
次期繰越金	0	292, 303	−292, 303
（支出合計）	1, 522, 364	1, 550, 234	−27, 870

《特別会計》　（平 26. 6. 1～平 27. 5. 31）　単位：円

収入の部	予算額	決算額	差異
雑入金	650	486	−164
前期繰越金	2, 458, 315	2, 458, 315	0
（収入合計）	2, 458, 965	2, 458, 801	−164
支出の部	**予算額**	**決算額**	**差異**
支出金	50, 000	60, 000	10, 000
次期繰越金	2, 408, 965	2, 398, 801	−10, 164
（支出合計）	2, 458, 965	2, 458, 801	−164

平成 27 年度収支予算案

《一般会計》　（平 27. 6. 1～平 28. 5. 31）　単位：円

収入の部	予算額	前期予算額	差異
年会費	270, 000	270, 000	0
懇親会費	800, 000	800, 000	0
寄付金	285, 000	285, 000	0
会報広告収入	20, 000		20, 000
本部助成金	13, 000	13, 000	0
前期繰越金	292, 303	154, 364	137, 939
（収入合計）	1, 680, 303	1, 522, 364	157, 939
支出の部	**予算額**	**前期予算額**	**差異**
総会費	230, 000	315, 000	−85, 000
懇親会費	690, 000	690, 000	0
会議費	110, 000	110, 000	0
名簿管理費	30, 000	0	30, 000
通信費	42, 000	30, 000	12, 000
広報費	100, 000	8, 000	92, 000
支払手数料	35, 000	34, 000	1, 000
消耗品費	20, 000	45, 000	−25, 000
本部派遣費	50, 000	50, 000	0
予備費	373, 303	240, 364	132, 939
（支出合計）	1, 680, 303	1, 522, 364	157, 939

※赤字は、新規項目

《特別会計》　（平 27. 6. 1～平 28. 5. 31）　単位：円

収入の部	予算額	前期予算額	差異
雑入金	650	650	0
前期繰越金	2, 398, 801	2, 458, 315	−59, 514
（収入合計）	2, 399, 451	2, 458, 965	−59, 514
支出の部	**予算額**	**前期予算額**	**差異**
支出金	50, 000	50, 000	0
予備費	2, 349, 451	2, 408, 965	−59, 514
（支出合計）	2, 399, 451	2, 458, 965	−59, 514

地元の食材と調味料に
こだわり続ける。
山形牛をはじめ
郷土料理と
銘酒が愉しめる店

も一吉

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-10
ＴＥＬ　０３－５２６１－２１２８
マスター　安部俊彦（昭和４６年卒）

東京メトロ南北線飯田橋駅B3口 徒歩1分
ＪＲ飯田橋駅　西口　徒歩３分

編集後記

人生はドラマである。今年は、戦後70年、これに因んで、戦後70年記念号とした。戦後70年を振り返ってみるのも意義深いのではなかろうか。

長井高等学校（前身の旧制長井中学、旧制長井高等女学校）の卒業生として忘れてはならないのは、大先輩桑島恕一氏である。激動の時代のドラマを、調査力抜群の工藤美知尋委員に執筆して頂いた。氏の人類愛をいかんなく綴って頂いたと思う。大先輩の偉業は、郷里のレガシーである。不条理極まりない裁きは、涙なくして語れない。圧巻になった。

桑島大先輩の犠牲はあまりにも大きい。この大きな犠牲の上に、今日の平和国家日本があり、私たちはその平和と豊かさを享受している事をあらためて認識した次第である。

また、当会はじめての試みである鷹櫻サロンの模様を守谷次郎会長に、講師の馬場護先生には講演の概要を執筆して頂いた。今、注目の原子核と放射線の働きとリスクについて分かりやすく説いて頂いた。徒に怯えることなく、注意深く賢く活用する事が大切である事を教えて頂いた。

エッセイには、国際派の斎藤雄三氏による車両技術者人生を執筆して頂き、海外での活躍、そして、ノーベル賞受賞者赤崎博士とのLED共同開発なども披露して頂いた。麦谷弘子氏には、今の問題としての医療と介護の役割と携わる人の姿勢を執筆して頂いた。生き生きと瑞々しく生きたい。誰しも抱く希望である。価値あるお仕事である。

お馴染みになった桐山有節氏の筆になる歴史ハイク・レポートは古都鎌倉に誘う。大滝二三夫氏によるゴルフ・コンペ・レポートは、魅力いっぱい。メンバー増に一役。

当会最大のイベントは定例の総会懇親会である。昨年の総合司会を務めた副事務局長の浅野陽一氏に執筆をお願いした。タイムスリップした空間を、そして、人間模様を綴って頂いた。

ここに盛られた人生そしてお仕事。何れもドラマではなかろうか。これからも、会報は、会の活動を、お伝えすると同時に、同窓の紳士淑女のドラマを盛り沢山掲載して参りたい。

自薦他薦問わず奮って応募して下さい。また母校の事、同窓生の事、クラス会の事、お伝えしたい事がありましたら編集委員会または事務局にお届け下さい。

編集委員会　委員長　黒澤俊雄
委　員　工藤美知尋、江原明子
発行責任者　会　長　守谷次郎

東京鷹桜同窓会事務局

〒285-0813 千葉県佐倉市石川７８１－１８　斎藤方
携帯 090-4749-3533(斎藤) 090-2623-3166(浅野)
E-mail　siro-saito@hb.tp1.jp(斎藤)
onlysun@catv296.ne.jp(浅野)
ホームページ　tokyoyoodosokai.sakura.ne.jp